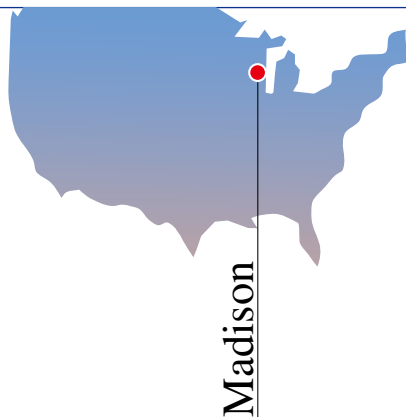


# ウィスコンシン州 マディソンの思い出



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
小児医学分野

近藤 秀治 こんどう しゅうじ

2005年4月から2007年6月までの約2年間、ウィスコンシン大学マディソン校 医学部 小児科で研究に従事してきましたので報告致します。

ウィスコンシン州は東がミシガン湖、北はスペリオル湖に面しアメリカ中西部の北側に位置しています。非常に多くの湖が点在し、春夏は芝や木々の緑が、秋は色鮮やかな紅葉が非常に美しい所です。この季節には、湖の周辺の散歩を楽しんだり、日暮れにボート上で夕日を眺めたり、ビール片手におしゃべりをして多くの人々がリラックスしています。一方、冬は凍りつくような寒さが特徴で、1日中気温がマイナス20℃以下になる日が続きます。これだけの寒さですと、湖は凍り付くものですから、アイススケートや釣りだけでなく、湖上で、自動車をスリップさせたり、大人数で凧揚げをしたりと楽しいイベントが多いです。



写真2: 大学病院

大学の所在するマディソンは、ウィスコンシン州の州都でシカゴから北西に車で3時間程の所にあります。2つの湖に挟まれた街の中心に州議事堂(写真1)が位置し、西側一帯が大学キャンパスとなっています。マディソンは州関連の機関と大学を中心に形成され、20数万人の人口に対し、大学の学生および職員が約5万人であり筑波学園都市のような街ではないかと思えます。町並みは小ボストンといわれ、美しく落ち着いています。教育レベルや就業率は高く、一番住みやすい都市のNo.1に選ばれたことがあります。特に、治安が良いことが最大の長所です。外出時や車から離れるとき、カギをかけ忘れることは日常茶飯事でした。



写真1: ウィスコンシン州議事堂

ウィスコンシン大学は1848年に創設された州立大学であり、幅広い学問研究が行われ、州立大学としては規模、研究水準ともにトップクラスです。医学生物学研究関連(写真2: 大学病院)では、ビタミンAやビタミンBの発見、ヒトの胚性幹細胞樹立の成功などが有名です。

私は、小児科のDr.Sorensonの研究室に所属し、どのように腎臓の血管が作られるのか、その時にどのような分子が働いているのか、といった基礎的な研究を行ってきました。この時の研究で、腎臓でBcl-2やPECAM-1という蛋白が、血管新生に重要な役割を果たしていることが分かり大変勉強になりました。英語には苦労しましたが、2年も毎日顔を合わせていますと、不思議と空気で意思疎通ができるようになりました。しかし、英語の発音(wやcまで)を、最後まで指摘され、帰る頃になって、英語がきた時より下手になったと豪語されてしまった時は、がっかりしました。しかし、率直に何事も言ってくれる良き研究指導者に巡り会えたことは、貴重な宝物となりました。

最後になりましたが、ご指導、ご推薦を頂きました徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 小児医学分野 香美祥二教授、情報伝達薬理学分野 玉置俊晃教授、また小児科入局当初よりご指導いただきました徳島大学 黒田泰弘副学長に厚く御礼申し上げます。

